



くすのき み き
楠 三貴 さん



株式会社 桑郷 専務取締役（市川三郷町）

今回は、養蚕農家の減少で耕作放棄地となった畑を次々と蘇らせ、桑畑の再生と地域活性化のために山梨から世界へ幅広く活躍されている「株式会社 桑郷（くわのさと）」専務取締役 楠 三貴さんにお話をうかがいました。

まず、これまでを振り返り活動に至った経緯を教えてください。

楠 12年前、神奈川県出身の私が、ここ市川三郷町に移り住んだのは、父が始めた事業を引き継ぐことになったからです。もともとは両親が神奈川県で事業をしております、父が桑の葉を使ったお茶の商品開発と販売をしていました。父の友人が山梨県におり、市川三郷町に遊びに行った際、桑畑が一面に広がっている自然豊かな環境が印象的だったといいます。

その一方で、養蚕農家の減少とともに、荒れ果てていく桑畑の現状を聞いたそうです。こんなにも素晴らしい場所があるならば、なんとかして桑畑を再生し、桑の栽培から桑の葉茶の製造までを一貫して自分たちの手でできないかと立ち上がり、地域おこしのためにもなるという父の思いから始まりました。

それから、ある程度の事業の基盤ができたところで、父から私たち夫婦に「事業のすべてを任せたい、次のステップは二人でやってほしい」と話を持ちかけられ、それが転機となり私たち夫婦は「桑郷」を設立し、二人三脚で会社をスタートすることになりました。

事業の継承後はどうでしたか。

楠 会社を設立したとはいえ、自分自身が農業や製造、販売、経営といった知識が一切なかったので、何をどうしたらよいかわからないまま、まさに未経験からのスタートでした。最初は手書きのチラシを作成し、主人がポスティング、私は町内や近隣地域へ一軒一軒訪ねて、そこで桑茶の紹介と商品販売を行うという、小さな一步一步の積み重ねでした。当時は、商品はあっても、どこに持っていったら商品を売ってもらえるのか、スーパーなどに商品を置いてもらうにはどのようにしたらよいか、商品を流通させるためのルートすら知らなかったので苦労しました。この頃は「地域のために何かをやろう！」と思う余裕もなく、ただ、自分ができることを精一杯やるという日々でした。県外から来た私と韓国人の主人では、人脈も資金も十分になく、あるのは桑畑と父が開発した商品だけでした。



楠 三貴さん

そこから、どのようにして事業を拡大してきたのですか。

楠 設立当初は、生産者さんに桑の栽培から収穫をお願いし、私たちは刈り取った桑の葉を買い取り、加工し販売を行っていました。今のように自社で桑の栽培から販売までを手掛けるようになったのは、地域のイベントや百貨店での物産展の参加などが少しずつ実を結び、地道に行ってきた営業活動が成果として現れるようになった頃です。

ようやく販売先が見え始めた頃、今度は生産者さんの高齢化と後継者がいないという問題に直面しました。そこで、販路拡大のためにも、自社で桑の葉の栽培を始め、農業に携わることを決めました。この地域をこれから支えていくのは「私たち若い世代なんだ！」と言い聞かせて。そして、なんとしてでもこの地域の産業として、地域活性化にもつなげていきたいという熱い思いで桑の栽培を始めました。

地域活性化にも積極的に取り組まれているようですが、具体的な取り組み状況を教えてください。

楠 今は市川三郷町の地域おこし協力隊の支援機関として、東

京から家族で移住してきた男性1名を受け入れています。

彼も農業は未経験からのスタートでしたが、今年は2年目となり今では畑チームの中核的存在になっています。私たちが作ってきた基盤を活用して、地域おこし協力隊が活動することにより、さらに地域に根差し共に盛り上げていけると思っています。日々、目の前に起こってくる出来事にチャレンジしながら、小さな成功体験の積み重ねによって自身の成長を感じています。自身の成長が関わるスタッフの刺激となり、会社の発展につながり、会社が発展していくことで、さらに雇用が生まれ、規模拡大によって耕作放棄地の解消につながり、結果として地域活性化に結び付いているのだと思います。

桑郷として地域おこし協力隊の支援機関となり受け入れられるようになったのも、小さなステップを着実に上りながら、畑も製造も、販売も、すべて実際に取り組んできたからだと思います。小さなことの積み重ねによって、できてきた現在の形が、少しずつではありますが地域活性化になっていると評価していただけるようになったのは有難いことです。

栽培している「一瀬桑」について教えてください。市川三郷町が発祥の地と聞きましたが。

楠 一瀬（一ノ瀬）桑は、1898年頃に山梨県西八代郡上野村川浦（現：市川三郷町）の一瀬益吉さんが原苗を発見した品種です。

葉っぱが肉厚でとても立派なのが特徴です。養蚕をするにはとても優れており、養蚕が盛んだった昭和初期、9割以上の農家が栽培し、全国に普及したそうです。当時はほぼ一瀬桑が全国に植えられていたということですね。

現在、市川三郷町に一瀬桑の原木がありますが、山梨県の天然記念物に指定され、大切に保存されています。私たちはこの一瀬桑発祥の地で桑の葉の事業をさせてもらっていることは大変貴重なことだと思っています。

最後に今後の目標や展望などあったら、教えてください。

楠 まず、桑畑の再生に関しては、7年前に最初に2万本の桑の苗を植えましたが、今は7万本まで増やすことができました。今年は自社で管理している7万本の桑と県内の生産者さんから買い取る桑を合わせて、10万本の桑の生産とお茶作りを行うことになっています。目標は10万本を自社で植える計画をしていますので、これからも町と地域と連携して取り組んでいきたいと思っています。

今は従業員30人程度の規模ですが、ゆくゆくは100人、1000人という大きな組織にしていきたいと思っています。そのためには日々勉強をし、新しい知識をインプットして実際に現場に落とし込んで自身の成長を続けていくことが大前提になると考えています。

また、多くの方と関わって、地域の方はもちろんですが今まで以上につながりを持っていきたいと考えています。



それから、今までは桑郷として自社だけで商品を作り上げてきましたが、これからは他の事業主の方や、何かにチャレンジしたいと考えている方と連携を図って、商品開発や新しいことを始められたらいいなと思っています。特に、女性の経営者の方とは積極的にコラボレーションできればいいなと思っています。女性の視点から、一緒に何かできたら嬉しいですね。

現在、フィリピンにもJICAの事業で進めている桑の製茶工場がありますが、いずれは世界各地に拠点を持っていきたいと思っています。そして、世界中の方々が市川三郷町に見学に来たり、私たちも海外へ行くことでさらに成長することができますし、国際交流ができる場の提供もしていきたいと思っています。

また、桑だけではなく、別の事業展開も考えていきたいと思っています。「百年を生きて千年の未来を輝かせる志で地元山梨・日本・世界に貢献する」これが企業理念ですが、この志を持って関わる全ての人を幸せにするために私は何ができるのか・・・を日々問い続けながら、私のやっているすべてのことが、市川三郷町の発展、日本の発展、そして世界の発展につながると確信してこれからも精進していきます。

株式会社 桑郷

〒409-3602 山梨県西八代郡市川三郷町山保6319

<http://www.kuwanosato.com/>